

桜美林学園創立100周年記念事業協賛  
桜美林学園同窓会「桜の園日本一計画」

桜美林学園同窓会 会長 山本美浩  
「桜の園日本一計画」実行委員会  
委員長 大沢則夫



## 寄附金募集趣意書

謹啓 同窓生の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

大正10年(1921年)5月28日、清水安三先生が北京の地に崇貞学園(当時は「崇貞工読女学校」)を創立してから100年の月日が流れました。母校創立100周年にあたり、創業時の清水安三先生の思いをまずふり返らせていただきます。

「わずか五百何十円で学校をこしらえると聞いて、何人も笑ったが、私はお金の上に学校を建てたのではない。実に無くてはならぬものは与えられる。」この信念のうえに安三先生はわずかな資金をもとに北京のスラム街に住む貧しい少女たちを救うため崇貞学園を創立されました。その後、日本敗戦により崇貞学園は接收されますが、昭和21年3月に帰国されてすぐの5月に再び桜美林学園を設立されることとなります。

「私たちが創立事務に奔走する頃は、四月の春まさに酎(たけなわ)の頃であった。学園には多くの桜の木があって吉野と八重の二種が最も多い。吉野桜が吹雪のように軽く散る頃には、八重桜が紅梅ではないかとおもわれるような大きなつぼみを結んでいる。建物と建物との間に桜の木が植わっているというよりは、桜の林の中に校舎が立っているといった方が本当であるほどに、桜の木が植えられている」  
(『石ころの生涯』「桜美林物語」より)

文部省へ設立申請する学校名は以前の校名「崇貞」では問題が起こることを懸念し、何か別名をと考えていたとき、清水郁子先生のひらめきにより、お二人のご出身のオベリン大学にちなみ校名を漢字で「桜美林」と綴ることにし、無事認可がおり5月5日の開校式を迎えられたのでした。

その開校式では新校歌が斉唱されました。その歌詞は、

「*美わしの 桜花咲く 林ぬち 養はむかな 萬世に 太平拓く 大和心を*」

開学式式辞の冒頭、安三先生は歌詞への思いをまず、次のように語られたそうです。

「日本武士道の従来のパット咲き、パット散る桜でなく、桜花が爛漫と咲き乱れるところ、なんとなく、天下太平のどけさを感じ、日本人ばかりでなく外国の人々にも愛でられる平和の象徴として、桜の花が匂う学園でありたい」と。

この桜の美しい林の中の学び舎で青春の時代を過ごし、今、創立100周年を迎えるにあたり、学園創立者清水安三先生、郁子先生の教育事業と、その熱情を再確認し、今後この学園で学びの時を過ごす後輩たちのために、世界にほこれる日本一桜の美しい学園創りをめざすために、桜美林学園同窓会ではそのお手伝いをさせていただこうと計画を立てております。

つきましては、同窓生ならびに学園関係者の皆さまに、桜植樹の基金を募らせていただきます。目標は「日本一」です。皆さまのご協力をぜひよろしくお願い申し上げます。

謹白